

適用内容と使用方法

作物名	適用場所	適用 雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用回数	使用方法	ACNを 含む農薬の 総使用回数	
				葉量	希釈水量				
日本芝 (こうらいしば)	-	藻類 コケ類	藻類・コケ類の 発生時	3～4kg/10a (3～4g/m ²)	200～300 ℥ /10a (200～300 mL / m ²)	3回 以内	散 布	3回 以内	
西洋芝 (ベントグラス)		コケ類	冬期芝生育期 (コケ類の発生時)	2～4kg/10a (2～4g/m ²)					
花き類・ 観葉植物			コケ類生育期	2～4kg/10a	100～300 ℥ /10a		畦間雑草 茎葉散布		
樹木等	公園 庭園 宅地 駐車場 運動場 道路等	イシクラグ	イシクラグ生育期	2～4g/m ²	200 mL / m ²		植栽地を除く 樹木等の周辺 地に雑草茎葉 散布		
		コケ類	コケ類生育期		100～1000 mL / m ²				

作物名	適用雑草名	使用時期	希釀倍数	使用液量	本剤の 使用回数	使用方法	A C Nを 含む農薬の 総使用回数
つつじ類 (鉢植え)	ゼニゴケ	ゼニゴケ生育期	500 倍	鉢内土壤表面積 1 m ² 当たり 1 ℥	—	雑草茎葉散布	—

⚠ 効果・薬害等の注意

- ・本剤の所要量を所定量の水に加えてよく攪拌し、じょうろ又は噴霧器でコケ類、藻類に十分かかるように散布してください。
 - ・イシクラグに使用する場合、雨上がりなどイシクラグが水を含んで膨潤な時に使用してください。
 - ・つづじ類（鉢植え）、花き類・観葉植物に使用する場合は、作物にかかると薬害を生じる場合があるので、直接かからないように注意して散布してください。
 - ・カラー、花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用後14日間は入水しないでください。
 - ・植栽地を除く樹木等の周辺地で使用する場合は、薬剤が樹木類等にかからないように散布してください。
 - ・使用後のじょうろや噴霧器は十分水で洗ってください。
 - ・調製した散布液はなるべく早く使用してください。
 - ・公園、庭園等で使用する場合、特に以下のことに注意してください。
 - ①激しい降雨の予想される場合は使用をさけてください。
 - ②本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布してください。
 - ③水源池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意してください。
 - ④散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
 - ・本剤は西洋芝に対して薬害を生じるおそれがあるので、高温時に使用しないでください。
 - ・蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
 - ・本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - 散液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
 - 公園、庭園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう繩張りや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意してください。
 - 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

魚毒性等…水産動植物（魚類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

製品の詳細は
HP からもご確認
いただけます ➔



キレーダーはアグロ カネショウ(株)の登録商標



東京都港区赤坂 4-2-19

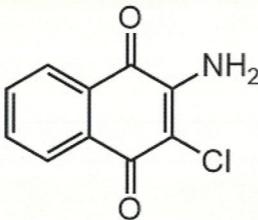
(吉川技ゴルフ場) AK22D01

- 使用前にラベルをよく読んでください
- ラベルの記載以外には使用しないでください
- 小児の手の届くところには置かないでください
- 本剤は衣服等への付着が目立つため、注意して散布してください

キレタ一でもうコケない

成分・性状・安全性

成分名・含量：ACN 25.0%
化 学 名：2-アミノ-3-クロロ-1,4-ナフトキノン
製 剤：水和剤
性 状：黄赤色水和性粉末 $63 \mu\text{m}$ 以下
毒 性：一（毒劇物に該当しない）
魚 毒 性：水産動植物（魚類、藻類）に影響を及ぼすおそれあり



特 長

- コケ類・藻類の専用除草剤です
- 発生後のギンゴケに速効的に効果を示します
- 日本芝・西洋芝（ベントグラス）にいずれも使用できます

除 草 作 用

- コケ類・藻類の表面より吸収され、光合成を阻害することで*、白化・褐変し枯死します

* … ポルフィリン合成、光化学系 I（光増感物質の蓄積による過酸化効果）

試 験 事 例

ギンゴケ

ギンゴケは土壤水分が多いときや空中湿度が高い時に成長し、弱酸性から弱アルカリ性の環境を好みます。また乾燥時に休眠状態に入る事で環境に適応します。サンドグリーンは、表層の土壤pHが6.5～6.8と殆ど変化しない事から、ギンゴケにとって適した環境になっています。

●ギンゴケに対する効果（社内試験）

試験場所：静岡県 東部地区
処理日：12月8日及び1月7日
調査日：1月14日
散布方法：キレダー4g／水300mlを蓄圧式噴霧器で均一散布
ベントグラスの生育が始まる春までにギンゴケを防除する事で生育しやすくなります。
注意：極端な低温・乾燥時での使用は効果が劣る場合があります。



上手な使い方

●ドウグリン水和剤との体系によるギンゴケ防除

■日本芝（こうらいしば）での使用時期

使用時期	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
キレダー												

■西洋芝（ベントグラス）でのキレダー・ドウグリン水和剤の使用時期

使用時期	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
キレダー												
ドウグリン												

キレダーの使用適期は、日本芝で9月～6月、西洋芝で11月～3月です。

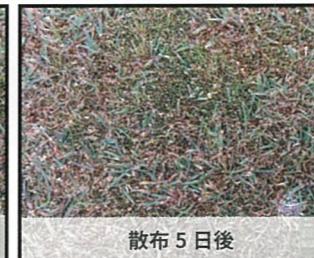
西洋芝で4月以降にギンゴケが発生した場合、ドウグリン水和剤を2週間間隔で2～3回散布する事でギンゴケ防除が出来ます。
※ドウグリン水和剤は細菌性病害の同時防除も可能ですが（使用回数は3回まで）。

●展着剤ササラ加用による効果安定化（参考事例）

試験場所：千葉県 成田市
供試作物：ベントグラス



キレダー 2g / 水 200ml / m² 単用



キレダー 2g / 水 200ml / m² + 展着剤ササラ 2,000倍加用



キレダー 2g / 水 200ml / m² + 展着剤ササラ 2,000倍加用



キレダー 2g / 水 200ml / m² + 展着剤ササラ 2,000倍加用

キレダーを散布する際に、展着剤ササラを加用することでコケ類に満遍なく濡れ拡がり、より安定した効果が期待できます。

※展着剤ササラの特長

- ・薬液の泡立ちを抑制することが見込めます。
- ・散布機噴口の目詰まり防止も見込めます。
- ・西洋芝の殺虫剤・殺菌剤への加用も可能です。

グリーン周辺でのギンゴケ以外での使用

イシクラゲ

カート道脇、砂利の駐車場、生育不良な芝地などの水はけの悪い場所で発生しやすく、アルカリ性土壌を好み繁殖します。

使用方法 雨上がり等、イシクラゲが水を含んでいる状態で散布してください。

注意：乾燥時に散布しても効果は得られません。
枯れたイシクラゲは無くなるまで時間を要します。

千葉県市原市（処理量：4g / m² 200ml）



散布時のイシクラゲ



キレダー散布 1.5ヶ月後

ゼニゴケ

ハウス周りなど土壌に張り付く様に様々な場所で発生し、酸性土壌を好み胞子等で繁殖します。

使用方法 登録範囲内の上限薬量で均一に散布してください。

注意：ゼニゴケに似たコケが多種あります。
それらは効果が劣る場合があります。

千葉県市原市（処理量：4g / m² 200ml）



散布時のゼニゴケ



キレダー散布 7日後

ハイゴケ

ラフ、木の下などに発生し、湿度のある場所を好みます。

使用方法 雨上がり等、ハイゴケが水を含んでいる状態で散布してください。

注意：枯れたハイゴケは無くなるまで時間を要します。

茨城県稻敷市（処理量：4g / m² 200ml）



散布時のハイゴケ



キレダー散布 34日後

その他注意事項

- ・激しい降雨の予想される場合や、極端な低温・乾燥時での使用はギンゴケへの効果が劣る場合があります。
- ・更新作業前の散布は菌等を広げる可能性があります。
- ・グリーンへの着色剤散布後の使用はコケがコーティングされ効果が得られない場合があります。
- ・調製した散布液は、なるべく早く使用してください。